

今治歴史散歩

大成 経 凡

今治の埋もれた、魅力ある歴史文化を紹介するコーナーです。第十九回は、関前地域の小大下島に残された鉱山遺跡を紹介し、石灰石の採掘で賑わった明治・大正・昭和の島の変容を歴史散歩したいと思います。

第十九回 小大下島の産業遺産

●今治城の石垣はなぜ白い？

今治城跡（県史跡）の特徴の一つに、石垣に白色の石灰岩が多く用いられている点があげられます。築城に際して、藤堂高虎が石集めに苦労した話が伝わりますが、これは良質な花崗岩産地である大島が、ライバルの加藤嘉明領（松山城主）であった理由が背景にあったようです。

大名が築城を行う場合、石垣は地元調達が一般的で、今治地方で良質な花崗岩が得られないとすれば、それに代わる石材に頼らざるを得ませんでした。そこで、海岸平城の今治城の場合、越智郡島しょ部沿岸に岩体を有する石灰岩が注目されたのかも知れま

せん。世界遺産のピラミッドも、石材には石灰岩が使用されています。

『四国鉱山誌』（一九五七）によると、今治地方にあった昭和初期の石灰鉱山は、小大下島・大下島・大三島・弓削島に一一か所を数えました。興味深いのは、この中で最小（周囲約三・四km／面積約〇・九km²）の小大下島に五つの鉱山が集中していることです。平成二十八年一月末現在の同島の人口は二八名ですが、ピーク時の昭和三十年代前半には五百名を越えていました。その賑わいを支えたのが石灰産業でした。



島に残る唯一の石灰貯蔵タンク

●小大下島を“変えた”石灰産業

小大下島で石灰採石が始まったのは江戸時代後期の文政年間とされます。当時、同島は松山藩の岡村・大下村の入会地でしたが、石灰の影響からか、天保九（一八三八）年に帰属争いが起き、藩の裁定で折半されることになりました。その名残で関前村の時代、同島の住所は岡村か大下のどちらかで表記されていました（現在は関前小大下）。

明治時代中頃までは、小割りされた石を石灰窯で焼成し、生石灰や消石灰にして肥料用石灰などにし



採石場跡のカネ源貯水池（カネ源は、鉱山経営者の屋号）

ました。同二十三（一八九〇）年には、島内に百近い窯が存在したようです。大山積神をまつる山神社には、社殿の彫刻に「水桶を両肩に担ぐ、高下駄を履いた石灰職人」の意匠が見られます。これは、生石灰に水を加えて加熱し、消石灰を得る際の光景をかたどっているようです。

明治後期く大正期から、同島ではセメント用原石の採掘が増加します。大正五（一九一六）年当時の生産量は、セメント用原石三〇万石・鉾業製錬用原石三〇万石・村内工場用原石二七・五万石・石灰用販売原石二〇万石・寒水石用原石一五万石でした（一石は約一五〇kg）。鉾業製錬用は、住友の四阪島製



石灰窯跡（積み石も石灰岩）

錬所に運ばれ、鉾石を銅・鉄・硫酸に分離する際の溶剤に使われました。寒水石用は、左官材料に使われました。

●昭和初期の採掘ラッシュと閉山

昭和初期になると、大手セメント会社の資本によって、小大下島に機械設備が導入されます。作業工程は、まず削岩機・ダイナマイトを使って岩肌を砕き、現場からは巻上機・トロツコで原石をクラッシュャーへと運びます。そこで小さく砕かれた原石はベルトコンベアーで岸壁の貯蔵タンクへと運ばれ、ここから船積みされました。島の形が姿を変えるのはこの頃からでした。

昭和七（一九三二）年、大阪窯業セメント株式会社が小大下鉾山で、浅野セメント株式会社が井村石灰石鉾山でそれぞれ設備を導入します。同十二年当時、小大下鉾山は五千トの貯蔵タンク二基を備え、一か月平均一万三千トを産出、従業員は百名でした。井村石灰石鉾山は四千トの貯蔵タンクを備え、岸壁に五千ト級汽船が横付け可能でした。一方、本村上鉾山は同九年に日東セメント株式会社が導入を図り、このとき備えた二千三百トの貯蔵タンクが現在朽ちて残っています。

しかし、昭和二十九（一九五四）年の大阪窯業セメントを皮切りに、大手企業が次々と同島での直営を休止します。埋蔵鉾量が不安視されたのです。同三十二年には浅野セメントの後身の日本セメント株式会社が、同三十七年には住友金属鉾山株式会社がそれぞれ撤退し、事業は地元経営者が継承して規模は縮小されます。最後まで残っていた本村上鉾山が同五十二

（一九七七）年八月に休止することで、同島の石灰鉾山は可採鉾量の約七〇％を掘り尽くし、閉山へといたったのです。

一方、島で最大の採石量を誇った小大下鉾山の跡地には、閉山後に水面約一畝の湧水池が生まれしました。村は昭和五十二年からここを水源地とし、小大下島・岡村島の上水道として利用を開始します。しかし、その力ネ源水源地地も間もなく役目を終え、二〇一七年四月以降は「とびしま海道」経由で広島県から上水道の供給が始まる計画です。



山神社の彫刻意匠（石灰職人をかたどっている）